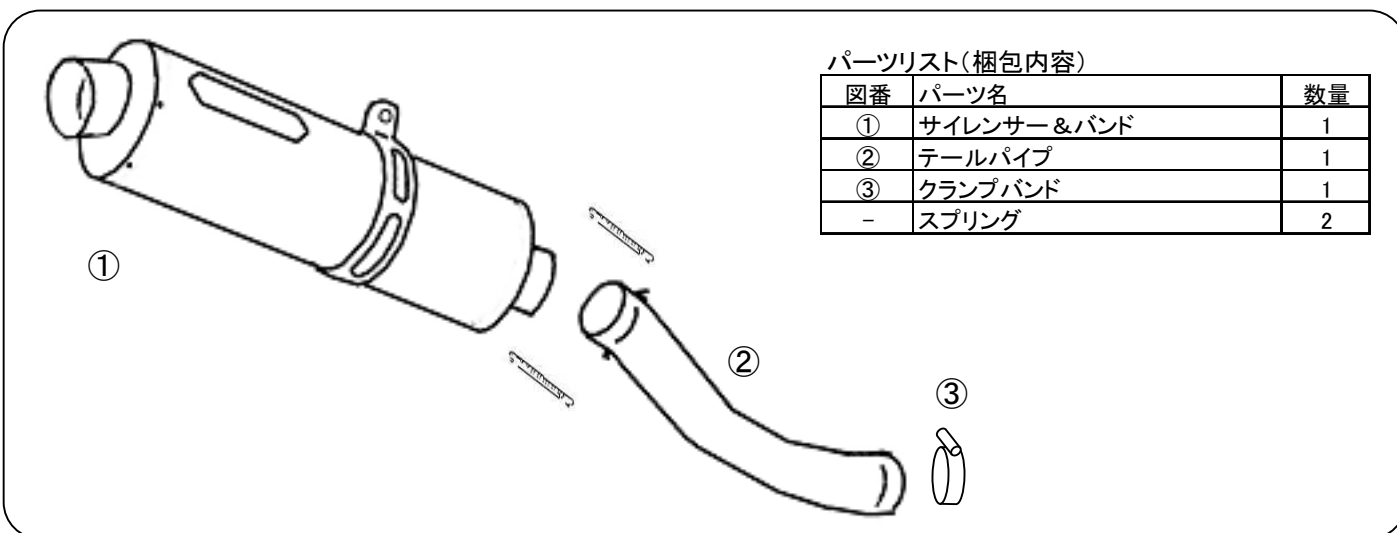


この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

取り付けに関しましては、メーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書の指示に従って作業を行って下さい。作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行って下さい。このマフラーは、400X 16モデル (2BL-NC47)用の商品です。その他の機種(車両型式・仕向け地)に関しては、取り付け確認及び車検対応の確認を行っておりませんのでご注意下さい。取り付け作業に関して、ご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。

※当マフラーは純正触媒がそのまま残る仕様の為、車検の際に排ガス試験成績証明書は必要無く、付属致しません。

※当マフラーは、400Xの純正オプションセンタースタンドとの併用はできません。ご注意下さい。



①純正マフラーの取り外し

純正マフラー(サイレンサー)を取り外します。

取り外しの際の純正ボルト・ナット類の一部はノジママフラーを取り付ける際にも使用しますので紛失等にはご注意下さい。

※マフラー・その他純正パーツの脱着方法に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従って作業してください。

②テールパイプの取付け

テールパイプ②を純正パイプに差込みクランプバンド③で仮留めします。

※差込部に純正ガスケットは使用しません。

③サイレンサーの取付け

サイレンサー ①をテールパイプに差し込み、純正ボルト・ナットを用いてサイレンサーバンドで純正マフラーと同じ位置に仮留めし、スプリングを掛けます。マフラー各部に無理な力が掛かっていないこと、車体各部との干渉がない事を確認し、必要があれば調整を行いながら仮留めしたボルトナットを本締めします。締め込み具合により車体とのクリアランスが変化する場合がありますので、注意して下さい。最後にクランプバンドでテールパイプ差込み部を本締めします。

※各差込み部には排気漏れ防止の為、シリコンボンド等を薄く塗布する事をお勧めします。

※スプリングはペンチ等を用いて作業すると折損の原因になりますので、必ずスプリングフック等をご使用下さい。

④最終確認

以上で作業は終了です。マフラーに付着した汚れをよく拭き取った上でエンジンを始動し、排気漏れ等がない事を確認し、必要があれば修正を行って下さい。

※チタンパイプ表面に残った脂分(皮脂など)は焼けムラの原因になります。必ず十分に脱脂してください。

⑤セッティングについて

このマフラーはすべてスタンダードの状態にて性能を発揮するよう設計されておりますので、基本的にセッティングは不要です。(突き詰めてセッティングを行う事でより良い結果を得られる場合はございます)

又、アクセルを戻した際に起こるアフターファイヤーが純正マフラーに比べて目立つ場合がありますが、これは車両の吸排気系が排ガス浄化の目的で積極的にマフラー内で二次燃焼を起こす仕組みになっている為であり、特に不具合等の心配はございません。(純正マフラーはサイレンサー内に壁が多い構造の為アフターファイヤーが目立ちませんが、純正マフラーでも同様に発生しています。)



装着イメージ

- グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合があります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブリさせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発→排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)
グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。
- 走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気を付け下さい。
- シンナー等の強力な有機溶剤は本製品には使用しないで下さい。
- 本製品は純正触媒を取り外しませんので、排気ガス検査成績書は付属していません。
- 転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メール等にてお問合せ下さい。その他ご不明な点ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

NOJIMA ENGINEERING

〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉町7265-7 TEL:059-378-3505 FAX:059-370-7811

WEB: <http://www.nojima-japan.co.jp> MAIL: info@nojima-japan.co.jp

NT028SGTM
170701